

秋の恒例 まつたけ委員会開催さる!

毎年好評を博している「まつたけ委員会」が本年度2020グランドデザイン委員会の幹事のもと、10月9日(土)PM7:00より大連に於いて、堀田会長をはじめ、副会長、委員長、副委員長、2020グランドデザイン委員会の総勢18名の参加のもと行なわれた。

普段あまり食すことのない「松茸」君の記念撮影から始まり、その後オーソドックスに炭火での素焼きを堪能、また徳中夫人の手によって揚げられた松茸、舞茸の天ぷら、きのこづくし炒め(?)など、マツタケ・マイタケ・シイタケ・エノキタケ・エリンギ他を使つての料理に舌鼓を打ち、最後に松茸御飯、吸物で締めくくった。

毎年、大連で行われるということで、徳中会員も、「メニューを毎回創作して、料理にチャレンジさせていただいて」とのこと。この努力を無駄にすることなく、来年も開催されることを期待したい。

また、今回料理に徳中会員、食材調達に大田会員、準備に2020グランドデザイン委員会と、ご苦労をいただき本当にありがとうございました。



聞いてごしない Part 13

「近くて遠い国、中国」

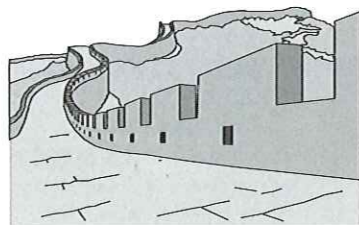
私は仕事で中国の山東省、青島市、洛城市、安丘市に行ったのです。何をしに行ったのか?それは中国で生産している農産物の現場と農業生産者の交流のためです。皆さん毎日食べている食材は、輸入物が8割ぐらいです。その中で中国で生産している物が多くあります。

日夜毎日遅くまで中国の農家の人はがんばってました。日本は終戦より50年余りたった現在、日本は外部の支援もあって飽食と文明時代になってきました。しかし農村は老人ばかりになってます。日本の食糧はいつまであるかな。

今年中国は建国50年でした。北京では色々な催しが行われていました。

中国が近代化で日本と同じ道にならないよう(農業に関して)私は心の中で思っていました。

シェイシェイ!



スイム 水に親しむ

一水ヒスキー体験記 其の貳一

8月29日(日)、2度目の水上スキーを体験できるチャンスが訪れました。前回から約1ヶ月のブランクがあったために「うまくすべれるかな?元に戻ったらどげしょ?」と思って臨みましたが1本日から難なくすべることができました。そのことについて気分をよくして、ボート後方にできる扇状の波を越えてボートに対して45度の位置まで移動するとかなりの遠心力を体験することができましたが、生身で体験する遠心力には一種の恐怖感を覚えました。

前回はすべるよりも転ぶ方が多かったために体力の消耗が激しかったのですが、今回は微妙なバランスを維持してすべり続けたために全身の筋肉がけだるくなり、足なんかつりそうになりました。優雅に見える白鳥も水面下では必死に足をバタつかせているように、はたからは遊んでいるようにしか見えない水上スキーもやっぱり体育会系スポーツしていることがおわかりいただけたでしょうか?無論、自分のことを白鳥とは思っていませんが…。

ちなみに、水上スキーの年内の活動は終了しましたが、興味をもたれた方は小林副会長もしくは田中会員までお問い合わせを。次回いよいよランに入ります。

(広報/後藤公平)

11月例会及び青経連合同研修会案内

11月例会は、青経連合同研修会と兼ねております。

とき 平成11年11月29日(月) 18:30開始

ところ 「ホテルサンルート米子」

内容 基調講演 鳥取県知事 片山善博氏

演題 「鳥取県西部の未来を語る」

～広域合併、環日本海交流等～

パネルディスカッション

パネリスト: 鳥取県知事 片山善博氏

米子市長 森田隆朝氏

境港市長 黒見哲夫氏

コーディネーター: 杵村山陰放送専務

担当 政治行政委員会

なお、食事は用意致しておりませんので各自でお摂りのうえ時間厳守にてご来場下さい。

11月役員会報告

11月定例役員会が、平成11年11月1日(月)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は次の通りです。

- (1) 11、12月例会(役員会)開催の件
- (2) 県青中研修会参加の件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

やさしいね陽のむらさきに透けて咲く去年の秋を知らぬコスモス

(俵 万智)

コスモスの花が目につく季節になりました。コスモスという名の由来は、ギリシア語で「秩序、調和、美しい、装飾」。

パステルのやさしく柔らかな色が、秋の光になびいているのを見ると、仕事の疲れが癒される思いがします。秋がいっぱいのこの時期、心と身体のバランスを取り戻し、澄み渡る空のようにすがすがしい気持ちでいたいものです。



Handsome

発行人: 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 堀田収 編集責任者 小林慎一 印刷所 東京印刷製

第51回中小企業団体全国大会及び海外視察研修報告



第51回中小企業団体全国大会が10月14日に沖縄県宜野湾市沖繩コンベンションセンターで盛大に開催された。全国各地より5000余名にのぼる中小企業の代表者が参集し地元沖縄タイムスにも一面大きく取り上げられ、また会場も大勢の参加者で熱気にあふれていた。

今回の全国大会は「組織の力で経営革新 築こう21世紀」で示されているように、中小企業が現在の厳しい経営情勢に立ち向かうため、中小企業同士が組合を中心とし連携の輪を広げ組織の力を活かすことで、新製品・新技術の開発や情報化の推進の経営革新を図り積極的に事業を展開して、夢と活力に満ちた21世紀を切り拓こうという意味を込めた今大会のテーマである。

鳥取県からは親会の鳥取県中小企業団体中央会の皆様をはじめ、東部、中部、西部の青年中央会23名で参加し西部青年中央会は堀田会長以下7名が参加した。また、翌日15日から3日間、中華民国(台湾)を視察研修した。台湾はめざましい経済発展をみせ、バイタリティーあふれ、人口はおおよそ2120万人、9部族に及ぶマレー・ポリネシア系原住民32万人を除くとほとんどが中国大陸からの移住民とその子孫であり、17~19世紀にかけて開拓民として渡ってきた人々の子孫を本省人、第2次世界大戦後に来た人々を外省人といわれ、その多くが福建省沿岸地方から来た人達である。また、一人当りのGNPが急激に増加している台湾は、1994年の統計で12,000US\$に迫る数字を記録し、台湾はアジアにおいて生活水準の最も高い国のひとつであり、また、多額の貿易黒字にもかかわらず、インフレーションは低く抑えられている。

この様な経済発展をみせる台湾産業の実態を把握するため、経済部中小企業處に訪問し、劉馨正主任の司会並びに通訳で経済環境説明、また地元中小企業の会社の代表者と意見交換を行ない、台湾の企業の代表者の方々は皆さん真剣で我々の日本の中小企業とビジネスチャンスがないかと意見を述べておられた。特に奥森副会長の周りに5~6名の台湾の企業人の方が集まり奥森副会長の話を食いつくすように聞いている光景がとても印象的であった。

今回初めて私自身全国大会、海外視察研修に参加し普段の旅行では得ることの出来ない大変貴重な体験であった。

マネージメント委員長/遠藤 健司



韓国・江原道 経済交流視察を終えて

部岡田会員と私と4名の参加であった。

19日の夜は、江原道異業種連合会主催のレセプションが江陵市(カンヌン)にあるホテルで江陵市長ご臨席のもと開催された。

団員は、各テーブルに2~3名にわかれ江原道の経営者の方々と交流をはかり、私のテーブルには、高さん(家具製造)、金さん(第一銀行江陵支店長)、申さん(パッケージ製造)、オーさん(自動車学校)そして江原大学日本語学科の学生さんに通訳をして頂きながら、ビジネスのことや家族構成、教育などさまざまな話題について話し合った。

韓国のみなさんが、特に驚かれたのは、日本の自動車学校の料金と銀行利息で、韓国では自動車学校の教習料は、免許取得まで日本円で約6万円(日本では30万円)ということで、日本から生徒さんを呼びたいと冗談まじりにオーさん。また、金さんは、日本の定期利息が0.2%だということ、信じられないという表情で「韓国なら定期利息が7%ですから是非どうぞ」と勧誘された。

また、翌日は江原道異業種連合会会員の企業2社を視察し、午後からは、東草市(ソクチョ)で開催されている江原道国際観光博覧会を視察した。

私たちは、真先に鳥取県ブースにおじゃまし、県の職員の方より説明を受け、鳥取県西部からは、米子市、境港市、日野町が出展されていた。この3日間、ぎっしりと詰まったスケジュールではあったが、韓国の人に出会い、文化にふれ、そしておいしい料理を食べた3泊4日の視察旅行で、それぞれの国の経済、習慣や考え方の違いは、大いに勉強になった。

(直前会長/宮廻裕和)



10月例会報告 初のOBとの意見交換会

平成11年10月21日ホテルわこうに於いて、「21世紀に維ぐOBと現役の意見交換会」と題し、岩坂和男OB・西村敬OB(17期)足立達朗OB(21期)藤居忠弘OB・阿部信行OB・赤石有平OB・音田猛OB(22期)をお迎えし、心地よい緊張感の中10月例会が行われた。堀田会長の「西部青年中央会も25周年をむかえ経済状況悪化の中、会の構造改革を含め将来あるべき姿を模索する」という趣意説明の後、25周年FV分科会(南FV代表)の提言をたたき台としたOB交流会・新入会員研修のための委員会設置・全日本トライアスロン皆生大会への取組み、そして永年の懸案である選挙について現役会員の意見に対して、会の一時代を担ったOBの方々にご意見を頂くとする形で進められた。



〈OB交流会〉

南FV代表：「OB会員の各委員会への招聘」「例会のオープン化」「会員手帳ハンサム有料化」というような交流しても良いのではないかと。

藤居OB：決まったOBしか来ないので、バラエティーに富んだ企画をし、普段来られないOBに参加を促してみてもどうか。OBの中でも20年ぐらいの年齢差があり世代の違いは否めない。年代別に色々な世代のOBとの交流、OBの側でもOBの手による交流会を企画し、現役会員と接点をつくることも必要であり、また、業種別にOBと関係の深い委員会に招いてもおもしろい。



赤石OB：OBは、新入会員との接点が少なく、参加OBのプロフィールぐらひは用意してもらいたい。

植田・遠藤会員：忘年例会、OB交流会に限らず趣味の部分での交流は印象深く、同じ時間を共有できたという実感がわく。

アンケートでは、現役会員の約70%がOB交流会を続けるべきだと感じており、従来の手法以外の交流も模索する事が必要である。

〈新入会員研修のための委員会設置〉

南FV代表：現在、新入会員の配属は、総務・広報の委員会となっており、委員会活動と合せて、教育というのは非常にむずかしく「専門委員会の設置」「入会前のガイダンスの徹底」が必要である。

足立OB：過去にはフレッシュ委員会という新入会員研修委員会があり、半年間かけて「鉄は熱いうちに打て」と時間厳守・すべての行事に参加といった徹底研修が行われていた。



赤石OB：同じ研修期間を過ごす連帯感も生れる。何の為に入会したかは自分自身で考え、会社に対して、何を持って帰れるかを考えるべきであり、もっと厳しい姿勢で活動に

取り組むべきである。時間がないと言い訳するのではなく、時間をつくる事も勉強である。

追谷会員：OBの方の現役時代を振り返ってみて、どうか。
岩坂OB：当時は会員も増加傾向にあり、寄らば大樹の影ではないが若手経営者は、青経連4団体いずれかに入るといふ風潮もあり、いずれ卒会ならば、寺子屋的に厳しくしてもよいのではという考えのもとフレッシュ委員会を設置した。

岡本会員：何故フレッシュ委員会がなくなったか。

阿部OB：時代背景がそうさせた。経済状況の悪化に伴い会員数の減少並びに入会者の激減。このことはフレッシュ委員会を維持していきただけの新入会員数を確保する活動にあまりにも時間がとられ、役員会自体が機能なくなる恐れが出てきたためである。また年2回の入会では他の団体に青田刈りされる恐れがあるため、現在のように毎月入会、総務・広報配属という形にした。



アンケートの結果、新入会員に限らず会に関する事で分からない事のある会員が1/3いるという現状であり、研修カリキュラムの導入を真剣に議論する時期ではなからうか。

〈全日本トライアスロン皆生大会への取組について〉

南FV代表：「トライアスロン皆生大会を西部圏域の振興事業への協力を目的とし継続事業として会則に制定」「AS責任者も選出し、トライアスロン実行委員会の組織づくり」「ボランティアのすそ野を広げ、地域社会に奉仕・貢献」という取組が必要ではないか。

西村OB：当初は自然発生的に応援団が出来、第8回大会より正式に後援、本格的に取り組むようになった。やるからには楽しむことが前提である。

種会員：新入会員にボランティアの楽しみ方を。

音田OB：自分なりの楽しみ方を見つけ、自分たちが出来ることを確実にすることの方が、大切だと思う。130名の会員数を考えると、ボランティア部、マラソン部に加えてASの組織の充実がよいのかどうかよく考えてほしい。

湯島会員：地方発信型のイベントとして、規模を大きくしてはどうか。

西村OB：ロングの大会は皆生を含めて4つしかない。そういう意味で重要な大会と言えるが、広範囲にわたる道路使用の問題と如何ともし難い。残念ながらこの問題を解決できなければ、メジャーな大会とはなりえないと思う。



〈西部青年中央会と選挙〉

堀田会長：「推薦状を出すことに對して、会則・内規変更を含めて明文化するか否か」「多数の推薦状を出すのはおかしい」「政経分離が原則」「選挙は個人の問題」などの意見がでている。

岩坂OB：経済を政治抜きで語ることは出来ないし、地方ならなおさらである。だからこそ本当に推薦に値する人物かどうかを十分に議論し、推薦したからにはできるかぎりの協力をする。そのことが地域に中央会の存在をアピールすることになる。また青経連4団体の中で政治行政委員会を持っているのは中央会の独自のカラーだと思う。



(紙面の都合上、いただいた意見を抜粋させていただきました。)

阿部OB：経済団体である以上地域の発展を考えることは当たり前、地域の発展は地方行政即ち政治を考えることである。地域の為を思うなら時の執行部は何故この人物なのかを議論をつくすべきである。臨時総会を開き、会全体の総意として、推薦状を出せばよい。推薦したなら、できる限り協力し、あの団体が動くという怖れと政治家から思われる西部青年中央会であってほしい。

推薦状の重みを考え今一度議論を重ねていく必要があるのではないかと。



時間が瞬く間に過ぎ、白熱する意見交換会の中でコーディネーターを務め、自らを三役の捨石と云って憚らない小林副会長、OB・現役の潤滑油役本当にご苦労さまでした。

10月度委員会報告

マネージメント委員会

平成11年10月6日(水) 於：米子食品会館 出席者/7名
内容/ 内部講師としてJTC代表取締役内田康彦氏をむかえ「成長する企業、若手社員のマネージメント」について話し合い会員各々、若手社員のマネージメントに頭を悩ましていたという現実が浮かびあがってきた。その後、講師先生と共に2次会を行った。

ビジネス交流委員会

平成11年10月5日(火) 於：米子食品会館 出席者/10名
内容/ 米子国際ホテルの退職にともない退会されることとなった柴田会員に、転職について語っていただいた。経理一筋19年の苦勞話、転職にいたる動機など意味深く、それに対して会員からの多くのアドバイスもあり有意義な時間であった。その後送別会もかねて2次会にて柴田会員を激励、散会した。

政治行政委員会

平成11年10月8日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名
内容/ 役員会報告の中で、11月例会(担当例会)の打合わせが白熱した。

特に、パネルディスカッションに片山知事と呼んだ場合、各自、どの様な質問がしたいのかという問いに各自、口頭からの行政に対する、不平、不満からと思われる質問事項が続出した。政治行政として県行政のトップと話が出来たら、大変充実した質問が用意出来そうである。

続いて、我が委員会の田中会員による「地方自治体における外部監査」というテーマで講演を頂いた。外部監査制度とは何ぞやと始まり、それこそ5W1Hで詳しく説明を頂いた。

げんこつ委員会

平成11年10月5日(火) 於：米子食品会館 出席者/7名
内容/ ・忘年例会打合せ
・講演：「今どきの少年について」
講師：喜多原学園 山澤重美氏
内容：1. 米子署管内の非行について
2. 非行ケースについて
3. 虐待ケースについて
4. 学校、家庭のあり方について

地域ビジョン委員会

平成11年10月14日(木) 於：ホールサムイんかいけ 出席者/12名
内容/ ・会員タイム
各会員の自社アピールの時間で今回は、小原会員にお願いしてお話を頂いた。
・講演：「地域に根ざした施設と地域づくり」
・講師：建築家 塚田隆氏

塚田先生は、現在鳥取市で進んでいる環境大学の大学センターの設計者の一人でもあり、自然環境・地域環境・住環境についてお話を交えて、環境大学の設計の進め方及び内容など大変貴重なお話を聴かせて頂きました。

21 地球委員会

平成11年10月8日(金) 於：大連 出席者/11名
内容/ 9月担当例会の反省を行い、その後、委員会の今後のスケジュールについての説明がなされた。最後に、12月の担当忘年例会の役割分担及びアトラクション案等について打ち合わせを行った。

平成11年10月13日(水) 於：大連

内容/ 今回は内部講師として、当委員会の磯田会員に「地球温暖化について」と題して、講演して頂いた。

地球温暖化とは、温室効果ガスの大気中の濃度が上がり、地表面の温度が上昇する現象のことを言い、最大の原因はCO₂であり、温暖化の及ぼす影響とは、海面上昇、異常気象、感染症、食糧危機などさまざまな影響を及ぼすということ。また、対策としては、CO₂を減らすライフスタイルを1人1人が意識して、直していかねばならないと、順を追って詳しく説明して頂いた。近い将来、温暖化によって地球が変わっていく事を想像すると暗くなりそう一夜であった。私達1人1人がもっと真剣に取り組むべき問題だと改めて認識した。

2020 グランドデザイン委員会

平成11年10月7日(木) 於：東亜青果2F会議室 出席者/9名
内容/ ・委員長タイム
(好感度テスト及び指示遂行テスト)

・人生企画発表
種副委員長、金田会員、小林会員から知られざる生い立ち、人生目標、座右の銘を聞き、メンバー全員が各々の人生の節目について質問したり、仕事上の苦勞などについて感想を述べた。

広報委員会

平成11年10月4日(月) 於：米子食品会館 出席者/15名
内容/ ・ハンサム11月号の編集打ち合せ
・インターネットメンテナンス・進捗状況報告
・10月例会の質問内容の討議

総務委員会

平成11年10月8日(金) 於：ホールサムイんかいけ 出席者/14名
内容/ ・11月例会開催の件
・ゴルフコンペでの役割担当者の決定
・新入会員のオリエンテーションのあり方について
・12月忘年委員会について